

普及情報

ユズの定着、更なる飛躍

現在神崎郡内においては、昭和50年に村おこしで始まった神崎町根宇野（みよの）地区でのユズの導入(6.2ha)をきっかけに、近隣の大河内町や市川町でも植栽が進み、現在10.1haの産地となっている。

当地区は、導入当初よりユズ果実の搾汁を中心として発展してきた産地である。しかし、近年搾汁量が需要量を上回り、また、農協の加工用ユズ買い入れ単価の低下など厳しい中で、新たな販路の開拓はもちろんのこと、生果出荷への方向修正並びに有利販売が大きな課題となっている。

そこで、北部農業技術センター加工流通部の協力を得ながら、産地強化の普及活動を行っている。

1 生果出荷産地への取り組み

(1) 防除システムの整備

ユズ産地の中心である根宇野地区では、高齢化により病虫害防除等の管理が行き届かない農家が多かった。そこで、省力的な防除方法についてユズ部会で検討し、今年度農村資源活用農業構造改善事業で5.1haのユズ園地にロータリークラーが整備された。

(2) 出荷期間の拡大

一般的には、8～9月の青玉出荷、11月～12月の黄玉出荷が通常の出荷形態であるが、これ以外の10月や1～3月にも市場出荷できるよう施設(早期着色及び高温予措兼用施設)の整備を進めた。

エチレン処理による早期出荷では、一ケース(量目1.5kg)当たりの平均単価は1,128円と高値で販売されている。(過去3年間の11月～12月出荷の平均単価は640円)

また、貯蔵用果実には高温予措を行い、冷蔵庫で貯蔵中である。

(3) 下級品の販売対策

これまでの箱出荷に加え、今年度から下級品の販

売にも力を入れている。下級品はパック(2個入り、3個入り)での出荷とし、冬至の頃を中心に量販店向けに出荷している。

ユズの出荷先は、姫路、神戸、大阪、京都の4市場である。

2 加工基盤強化への取り組み

今年度搾汁ラインの中に選果機を導入した。これにより、果実の大きさ別搾汁が可能となり搾汁率の向上が図れる。また、果汁の貯蔵のため規模にあった冷蔵庫が導入され、貯蔵果汁の品質低下を防ぐことが期待される。

3 今後の課題

- (1) 整枝せん定の徹底 … 管理作業の軽労化と品質の向上を図るため低樹高化を徹底する。
- (2) 新しい加工品の開発 … すでに商品化されたものに加えて新たな加工品が必要である。
- (3) 貯蔵技術の確立 … 貯蔵庫の整備と予措により適切な貯蔵ができるよう技術の確立を図る。

ユズ果実の用途はきわめて広く、加工、生果両面での産地化をさらに進めたい。

岸根 秀明(福崎普及センター)



図 ユズの早期出荷